

1 CSOラーニング制度夏期合宿を開催しました！

8月30日（水）から9月1日（金）の3日間、損保ジャパンの守谷総合研修センターにて、CSOラーニング制度夏期合宿を開催しました。昨年度までの数年間は新型コロナウイルスの感染防止のためオンラインでの開催となっており、実に4年振りの対面開催となります。全国から40名以上のインターンが参加しましたが、環境

に関心を持つ同世代の仲間同士、参加地区を越えてすぐに打ち解け、活発な議論を交わしながら絆を深めていく様子が印象的でした。

以下では、合宿のプログラムの概要をご紹介します。

・生物多様性ワークショップ

（講師：公益財団法人日本自然保護協会（NACS-J）
ネイチャーポジティブタスクフォース室長 高川晋一さん）



合宿最初のプログラムでは、いま環境分野で非常に注目度が高まっている「生物多様性保全」をテーマとしたワークショップを行いました。同分野の第一人者であるNACS-Jの高川さんを講師に迎え、インターンには「企業と地域の自然を掛け合わせた新しい保全プロジェクトの作成」という難題にチャレンジしてもらいました。各グループとも悩みながらも趣向を凝らした企画を提案してくれ、講師の高川さんもユースの柔軟なアイデアに唸られていました。



・インドネシアインターンとのプレ交流会

インドネシアで同じく8か月間のインターンシップに参加している同期の仲間たちと、9月下旬の交流会に先駆けて、プレ交流会を実施しました。今回は少し環境の話題を離れ、お互いの学生生活や日々の暮らし



について紹介し合い、とても和やかな雰囲気での交流を深めました。学生生活とインターン活動の両立や、就職活動の悩みなど、国は違えども学生の悩みは共通していることがわかり、非常に興味深い内容でした。



・「The Action！—SDGsカードゲーム—」

損害保険ジャパンが開発した「SDGsカードゲーム」を実施しました。SDGsについて学びながら、地域を変えていく過程を体験できるゲームです。インターンたちは1つの地域の中で行政や事業者など様々な役割を持って目標達成を目指しますが、それぞれが「自分の目標だけを達成しても社会は良くならない」という気づきを得る瞬間があります。そこからガラッとプレイヤーの行動が変わる様子を、参加者であるインターン自身も楽しみながら、多くの学びを得ている様子でした。



・タニモク（チューター企画）

コーヒープレイク的な企画として、チューターの4名が「タニモク」というワークショップを行ってくれました。3人1組で、「自分の目標を他の2名に考えてもらう」という一風変わった内容ですが、第三者から自身の目標や将来について意見をもらうことは新鮮だったようで、就職先や進路の検討に役立った！と大変好評でした。

・西澤理事長講演



財団の西澤理事長より、経団連自然保護協議会の会長として参加をしたCOP15のエピソードや、インターンへの激励のメッセージを伝えました。インターンからは特に欧州と日本の自然観の違いや、国際会議の裏側について多くの質問が集まり、活発な意見交換が行われました。



・ミニプロジェクト

最後に、インターン期間の後半で行うミニプロジェクトについての打合せを行いました。同プロジェクトでは派遣先の垣根を越えて共通の関



心テーマを持つインターン同士が様々な企画を行うもので、初回にも関わらずユニークな企画案が次々と生まれていました。

久しぶりの対面合宿ということで開催前は不安もありましたが、インターンたちの楽しそうな笑顔と、課題に臨む真剣な眼差しが、すぐに心配を吹き飛ばしてくれました。

参加者からも「環境に関心を持つ同世代の仲間がこんなに沢山いることに勇気づけられた」「顔を合わせて話すことで同期の絆が一気に深まった」など嬉しいコメントが寄せられています。合宿の経験を糧に、皆さんがより一層充実したインターン活動を行ってくれることを期待しています。私たち事務局も、全力で皆さんの活動をサポートして参ります。



CSOラーニング制度は2000年の制度開始から今年度で24期目を迎え、昨年度末までに1,276名の修了生を「木を植える人」として社会に送り出してきました。「修了生のその後の活躍が知りたい!」という声も多くいただきますので、ここでは様々な分野で活躍されている修了生の皆さんの「いま」をお伝えします。

①. 今のわたし(勤務先や現在の業務内容など) ②. CSOラーニング制度で学んだこと、得たもの

01 参加年度:2011年
派遣先:公益社団法人 日本環境教育
フォーラム (JEEF)

加藤 超大さん



① 日本環境教育フォーラム事務局長。大学卒業後に青年海外協力隊(職種:環境教育)として中東・ヨルダンへの派遣を経て、2014年よりJEEFに入社。入社後はバングラデシュやインドネシア、カンボジアでのエコツーリズムや自然の恵みを活用した製品の開発・販売事業に携わり、2019年11月より事務局長に就任。現在は国内外における環境教育の普及啓発や指導者養成に携わる。

② 環境問題について熱く語り合える仲間と出会えたこと。CSOラーニング修了後10年が経ちますが現在も仲が良く、「CSOランニング部」を立ち上げて一緒に汗を流しています。そして、最近ではプライベートだけではなく、仕事面でも一緒にすることが多くなってきました。このような関係性を築けたのも、CSOラーニング期間中に団体を超えて一緒にイベントやワークショップを企画したり、飲み会をしたりと濃密な時間を過ごせたからだと考えています。

02 参加年度:2012年
派遣先:特定非営利活動法人
新宿環境活動ネット

飯田 貴也さん

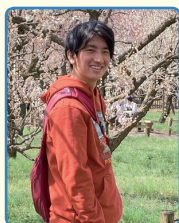


① 大学院で環境教育やESD、ワークショップデザインなどを学んだ後、「CSOラーニング制度」の派遣先だった新宿環境活動ネット(SEAN)にそのまま就職し、職員・事務局長を経て、2021年から代表理事をしています。「学びでつなぎ、未来をつくる。」をキャッチコピーに、企業・NPO/NGO・大学・行政機関など約70団体と連携・協働しながら、年間100件ほど、小・中学校での出前授業や社会教育施設での市民向け講座などのコーディネートに携わっています。これからも環境教育をライフワークとして、立場や分野、世代を越えた学び合いの場をつくりながら、自分自身も成長し続けていきたいと考えています。

② 「CSOラーニング制度」では、大学や所属サークル以外の2枚目/3枚目の肩書きを持つことができ、自分の人脈を広げる上でとてもありがたかったことを覚えています。「●●さんと話してみたい」「××会社とコラボしたい」と考えるとき、学生の立場を前面に出した方がうまく進む場合と、派遣先NPOの名刺を持っていった方がうまく進む場合があると思います。そういう意味で、学生時代にさまざまな肩書きを持って人脈を築けたことは、結果的に今の活動にもつながる自分の財産になっています。

03 参加年度:2019年
派遣先:公益財団法人 みやぎ・環境と
くらし・ネットワーク (MELON)

平澤 拓海さん



① 東北大学卒業後、環境省に入省。1年目は、国際脱炭素移行推進・環境インフラ担当参事官室という部署で日中韓やASEANとの国際会議等を担当。2年目7月より地球温暖化対策事業室に異動し、既存建築物の脱炭素化等を担当。国内のGX推進に関わる業務をしています。

② MELONでは、主にイベント運営やアンケート調査などの実務に加え、実際に地域に足を付けてイベントの補助などを行うことがありました。イベント運営においては、当日の対応ではなく、その前の入念な準備が重要であることを身にしみて感じました。(あるイベントで事前の連絡ミスなどがあり、当日会場の人やスタッフに多大な迷惑をかけてしまうことがありました) そうした失敗があったからこそ、今いろんな業務を前向きに進めることができている。

04 参加年度:2019年
派遣先:公益社団法人 日本環境教育
フォーラム (JEEF)

久保田 翼さん



① 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立那須甲子青少年自然の家で総務係に属し、給与計算やHP管理等を行っております。初めの1年半は事業推進係に属し、利用者の対応や教育事業(子どもキャンプ)に従事しておりましたが、現在は総務係員として施設運営に関する業務を行っています。

② 「人との繋がりと楽しさ」を学びました。同時期に参加していたラーニング生は、自分よりもアクティブでありながら知識も豊富で、たくさんの刺激を得ることが出来ました。また、環境財団主催の「市民のための環境公開講座」では、たくさんの著名人の話を聞くことができました。CSOラーニング制度では、人と繋がることでたくさんの刺激・学びを得ることができました。

05 参加年度:2020年
派遣先:公益社団法人 日本環境教育
フォーラム (JEEF)

関根 瑞希さん



① 学部・大学院で環境教育(修論は長期的環境学習を受けた青年の地域観に関する研究)を学び、2022年から新卒で特定非営利活動法人 新宿環境活動ネットに入社しました。現在は環境学習コーディネーターとして働いています。新宿区から外部委託を受諾しており、主に区内の環境学習(小中学校への出前授業や・生物多様性講座・環境活動表彰等)に携わり、区民や区内事業者の環境への意識向上を目指しています。今まで主に哺乳類が好きでしたが、新宿では虫や植物を題材にする場面が多く、今まで知らなかった魅力に気付かせてもらいながら仕事をしています。豊かな自然が少ない新宿でも、ポジティブな理由で、より多くの人に環境に関心をもってもらうため模索中です。

② 人や団体との連携を学ぶ機会になったと思います。「関係機関が協働することが大事」ということは前々から学んでいましたが、なかなかそれを実感する機会がありませんでした。コロナ禍初めてのインターンだったこともあり、JEEFでの活動で、自然体験活動の危機を様々な機関や人が連携して、乗り越えようとしていく瞬間を間近に感じる機会になりました。

現在私は、現場で直接環境教育を伝える立場ですが、その背景には環境の法整備や、政策提言、現状把握のための研究等が必要です。それらを会社や団体は違えども連携しあい、実施することを肌感覚で体験できた貴重な機会でした。

06 参加年度:2021年
派遣先:特定非営利活動法人
オーシャンファミリー

安西 雅季さん



① 2023年、ベンチャー企業である株式会社BUBIに入社。株式会社で自然教育ができる方法を考えた結果、体験型の宿泊施設にたどり着いた。「きっかけが未来をつくる」というVISIONと共に、新しい体験と自分自身を好きになれる環境づくりを目指している。2クール連続で会社内で表彰され、3クール目もタイトルを獲得できるように奮闘中。

② CSOラーニングで得たことは、派遣先である認定NPO法人オーシャンファミリーに出会えたことです。大学は自然教育を専攻していましたが、コロナの影響でフィールドワークに出られない日々が続きました。その中で活動できた経験と人脈、自然の偉大さ、自然教育の楽しさ、人生が変わるきっかけをたくさんいただきました。社会人になった現在も繋がりがあり、仕事でうまくいかない時はオーシャンファミリーに行き、たくさんの刺激をいただいています。

07

参加年度:2016年
派遣先:公益財団法人
オイスカ中部日本研修センター
奥平 ゆりさん



① 特殊鋼メーカーの愛知製鋼㈱にて一般職(営業事務・工場事務)として4年5か月勤務する傍ら、昨年複業として「やまゆりカフェ」を設立し、月1回程度間借りカフェを開催していました。会社は今月で退職し、9月からは料理教室開業を目標にパティスリーで働く予定です。

② 私はオイスカ中部研修センターでのインターンシップで、海外研修生と交流した経験をきっかけに、視野が広がり海外を身近に感じるようになりました。修了後にも交流は続き、研修生の母国であるミャンマーやフィリピンを訪れたことは忘れられない経験になりました。また、環境財団前任の芦沢さんから影響をいただき、収入を得るための会社員と自己実現するための複業の2足のわらじという生き方を実現し、楽しい人生を送るきっかけになりました。

08

参加年度:2010年
派遣先:認定NPO法人 アサザ基金
棚田 大介さん



① 株式会社日立ハイテックは、電子顕微鏡や半導体検査装置、HPLCなどの各種科学分析装置などを製造、販売している会社です。はやぶさが持ち帰った小惑星イトカワのサンプル分析にも、日立ハイテックの検査装置が使用されました。現在、私は日立ハイテックで、医療向け体外用自動分析装置の設計業務をしています。体外用自動分析装置とは、健康診断で採血された血液検体などの、各種成分濃度を自動で分析する機械です。業務では、市販後製品の不具合対応、販売先の各国の法規制対応などのために、試作、改良、文書作成、文書管理、監査対応など、多岐にわたる内容を担当をしています。

② アサザ基金では、3人のインターンで耕作放棄された田んぼの復田に取り組みました。復田によって、機械化、効率化とは異なる価値を創造するため、なぜ自分達が耕作放棄地の再生に興味を持ったのか、自分達の価値観の背景にはどのような経験、体験があったのかを夜中まで議論しました。不思議な出来事をきっかけに、荒れ果てた田んぼが生き物の集まる理想の環境へと戻っていく物語を作り、近隣の中学生に発表しました。物語(ストーリー)を描いて、自分の意見を他者へ伝えることや、やりたいことのアイデアだけでなく、やりたいことを実現するためのアイデア出しなどは、仕事をする上でも大切なことだと感じています。

09

参加年度:2011年
派遣先:特定非営利活動法人
環境市民
小林 佳奈さん



① 株式会社グロービズで「人材育成・組織開発を通じて、企業の創造と変革を促進する」ことをミッションとし、企業の人事部様をメイン顧客として、企業の人材育成プログラムの設計・提案を行っています。具体的には、ヒアリングを通して経営戦略に紐づく組織・人の課題を特定し、そのための打ち手を提案し企業の変革をサポートする仕事をしています。また、グロービスの仕事とは別に、学生向けのキャリア教育事業や、エシカルや環境問題をテーマにしたお店やイベントのブランディング等も携わっています。

② CSOラーニング制度で得た学びが、いまの私のキャリア選択に影響を与えています。CSOでの体験や経験を通して、社会課題に強く課題意識を持ち、想いをもって活動されている素敵な方が社会にはたくさんいることを肌で感じることができました。同時に、長期インターンで関わらせていただくことによって、想いだけではどうにもならないこともあるという現実や課題のリアルも知ることができました。その中で、自分はどの社会に役に立っていきたいのか?という自分なりの解を持ってキャリアを歩めていることは非常に財産であると感じております。

10

参加年度:2016年
派遣先:認定特定非営利活動法人 環境会議所東北
谷崎 佑磨さん

① 大学院卒業後、出身地である大阪に戻ることを考えましたが、お世話になった東北で仕事がしたいと思い、石巻市役所に就職しました。生活再建支援課(被災者の生活支援)を経て、現在は、生活保護課に在籍しており、生活保護ケースワーカーの仕事をしています(入庁7年目)。保護費の計算、自宅訪問、生活相談業務が中心であり、様々な関係者と調整を行い、困りごとを解決し、自立を一緒に目指すことが重要な仕事であります。

② 電話対応(宮城県内の高校にイベントの営業で電話をかけ続ける)、メール送信(CC、BCCの使い方...)、会場のセッティング、資料の印刷、関係者への取材...など、すべてのことが、役に立っています。取材をして自ら特集記事を書く機会がありましたが、自分の名前が掲載されることから、良い意味での緊張感がありました。また、NPOには政策づくり(提言)という花形イメージがありましたが、実際には事務作業が非常に多く、地味な団体とっていた時期もありました。しかし、地道な活動が結果の質に影響することを実感でき、大切にすべきだと感じます。なお、当時は地方創生が注目されていましたが、現在はSDGsが主流になりました。今後の主流は脱炭素であったり、脱成長なのではないでしょうか?

11

参加年度:2011年
派遣先:NPO法人 日本エコツアーリズムセンター
遠矢 駿一郎さん

① 大学卒業後、環境省へ総合職(自然系技官)として入省し、希少種保全や鳥獣保護管理、国立公園管理など自然環境に関わる業務に東京、仙台、新潟(佐渡)で携わってきました。内閣官房(地方創生部局)への出向などを経て、現在は環境大臣政務官(国会議員)の秘書官という立場で、政務官の公務のスケジュール管理や事務調整などを行っています。

② CSOラーニング制度は大学4年生の時に参加させていただきました。インターンを通じ、NGOやNPOの立場から環境に関する様々な取組を行うことの大切さや困難を学ぶことができ、現在行政官という立場で関係者間の合意形成を図る上でもとても大事な経験をさせていただいています。また定例会や自主企画を通じて、他の団体に派遣されていた同期生とも交流が深まり、「CSOランニング部」を結成。10数年が経過した今でも新しいことに共にチャレンジする大切な仲間になっています。

12

参加年度:2021年
派遣先:一般社団法人 コンサベーション・
インターナショナル・ジャパン
小宮 陽菜さん



① 新卒入社ベンチャー(人材業界)企業の株式会社サーキュレーションで法人営業をしています。特にIT業界の企業様を担当していたので、企業の社長様やCTOと商談をし、経営課題解決のためにIT人材のご提案をしていました。その中でも、「環境問題」、「脱炭素」、「エシカル」などを事業のテーマにしているスタートアップなどと接点をとることが多かったです。現職は8月をもって退職し、9月からはイギリスの大学院で気候変動対策を学んでいます。

② CSOの中で得たものは大きく2つあります。1つ目は、良質なインプットです。記事の翻訳などが主な業務でしたが、派遣先のCIJは国際NGOで共有されるサイト内の膨大な情報にアクセスすることができたり、国際会議に参加させていただいたり、大学の主専攻が異なる私にとっては、なかなか得られない情報を学ぶことができ、現在の活動にも繋がっていると思います。2つ目はご縁です。派遣先のCIJで先日集まりましたし、CSOラーニング制度のほか大学生ともいまだに定期的に連絡をとっています。CSOを通して出会った方は、心強い同志であり、今後も情報交換したいと思える方ばかりでした。

Question

- ①. ラーニング生はどのような業務をしていますか？または、どのような業務をする予定ですか？
- ②. ラーニング生にはどのような期待をしていますか？
- ③. CSOラーニング制度についてお考えをお聞かせください。

01

認定NPO法人 アサザ基金
木内 歩武 様



A①

かっぱん田の除草作業や収穫、脱穀といった谷津田の業務、小学校での授業やイベントの準備、当日スタッフとしての業務に加えて馬やヤギ等の動物のお世話や古民家の管理などの通常業務をしています。

A②

より多くの人を巻き込むために広報としても活躍し、若者の新しく新鮮な目線やアイデアで様々な問題提起をしてほしいです。また、当基金のマンパワーとしても期待しています。業務を通じて生物多様性や環境問題、自然保護・保全について知識と経験を培ってもらい、それを活かし社会に還元してほしいです。

A③

これからの未来を担う若者に普段の生活では得られないような知識や経験を積んでもらい、将来的に様々な問題を解決していけるような人材を育てることができ、組織的にも定期的に新しい風が吹くような貴重な機会になりとても良い制度だと思っております。

02

認定NPO法人 地球環境市民会議 (CASA)
島田 和幸 様



A①

地球温暖化問題や、エネルギー問題に関連するイベントの企画運営やその事前準備などに関わっていただいているほか、ラーニング生の関心事に応じたりサーチを進め、地球温暖化問題への理解を深めていただいています。

A②

当団体は、情報に精通し、自立し、活動する市民なしに環境問題の解決はないと考えています。活動を通じて物事を科学的にとらえる視点を身につけ、問題解決のために、主体的に関われることを一緒に学んでいければと思っています。ここ数年は学生生活も様々な制限があり、ようやく対面での活動が再開しました。会員との関わりや、CSOラーニング制度の全国の仲間との交流で得たことを、これからの活動に活かしてもらえればと思います。

A③

「パリ協定」がスタートし、国、自治体、企業は脱炭素へ向けた動きを加速させ、これまで以上に環境問題への関心が高まっています。そのような中、CSOラーニング制度は学生にとっても、私たち受入れ団体にとっても、貴重な機会を得ることができる制度で、毎年インターンとの関わりの中での気付きや学びに感謝しております。この制度を、より多くの学生が知って参加してもらいたいと思います。

4

2023年度「環境保全プロジェクト助成」の募集開始

SOMPO環境財団では、環境問題に取り組む皆さまの環境保全プロジェクトがより充実したものとなるよう、資金助成を行っています。以下のとおり今年度の募集を開始しましたので、ぜひ奮ってご応募ください。募集の詳細は当財団のホームページをご参照ください。(応募締切: 10月31日(火) 消印有効)



<https://www.sompo-ef.org/project/project.html>

1. 対象となるプロジェクト

- ①国内において「自然保護」「生態系保全」「ごみ問題」「気候・エネルギー問題」などの分野で、実践的活動や普及啓発活動を行うもの
- ②2023年度中に開始される予定のもの。(既に開始されているプロジェクトも対象)
- ③継続性、発展性を持つプロジェクトであり、その成果が公益のために貢献するもの

2. 対象団体

2023年12月末時点で公益法人、NPO法人または任意団体としての環境保全活動の実績が2年以上ある団体

3. 助成金額

1プロジェクトにつき20万円を上限(10団体程度・総額200万円の助成を予定)

環境保全に熱い思いを持って取り組む皆さまからのご応募をお待ちしています!